

海外の畜産物の需給動向

牛肉

米国

25年の牛肉生産量は前年比3.6%減、26年は同1.0%減と予測

25年の牛肉生産量は前年比3.6%減

米国農務省全国農業統計局 (USDA/NASS) によると、2025年12月のフィードロット導入頭数は155万4000頭（前年同月比5.4%減）、出荷頭数は177万3000頭（同1.8%増）となり、26年1月1日時点のフィードロット飼養頭数は1145万頭（同3.2%減）とやや減少した。また、25年12月の牛と畜頭数は258万頭（同1.5%増）とわずかに増加した（図1）。同年1～12月の牛と畜頭数の合計は2979万3000頭（前年比6.4%減）となり、前年をかなりの程度下回った（図2）。

図1 牛と畜頭数の推移

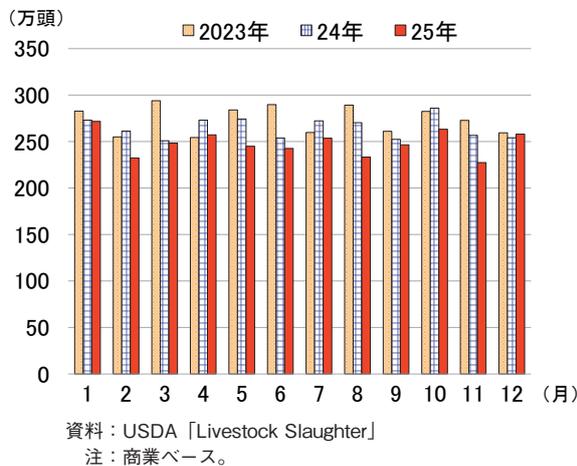
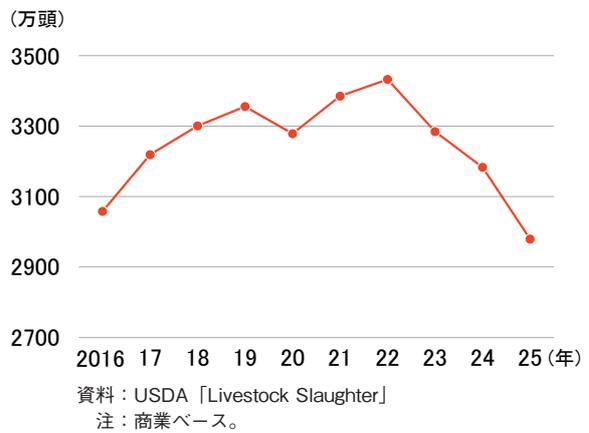
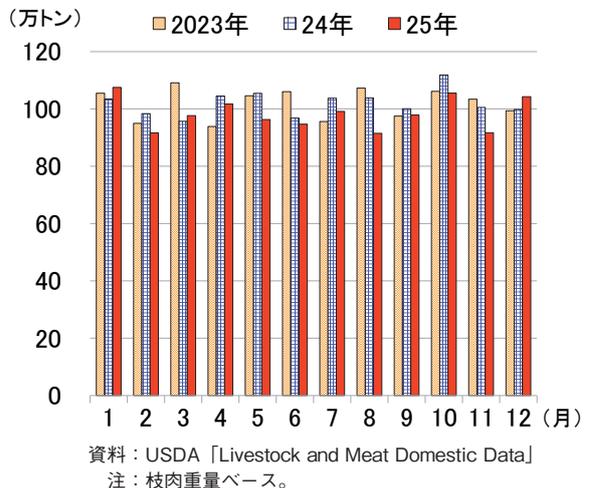


図2 牛と畜頭数の推移



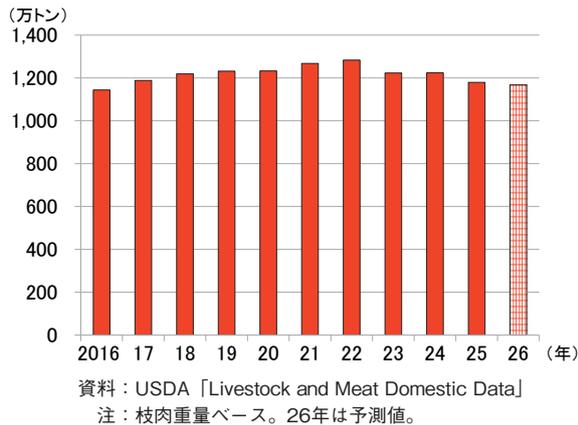
なお、25年12月の1頭当たり枝肉重量は406.4キログラム（前年同月比2.9%増）とわずかに増加したため、牛肉生産量は104万2000トン（同4.5%増）とやや増加した（図3）。同年1～12月の牛肉生産量の合計は、

図3 牛肉生産量の推移



1179万4000トン（前年比3.6%減）とやや減少した（図4）。26年の牛肉生産量は、と畜頭の減少を枝肉重量の増加が部分的に相殺すると見込まれるものの、同1.0%減とわずかに減少すると予測されている。

図4 牛肉生産量の推移



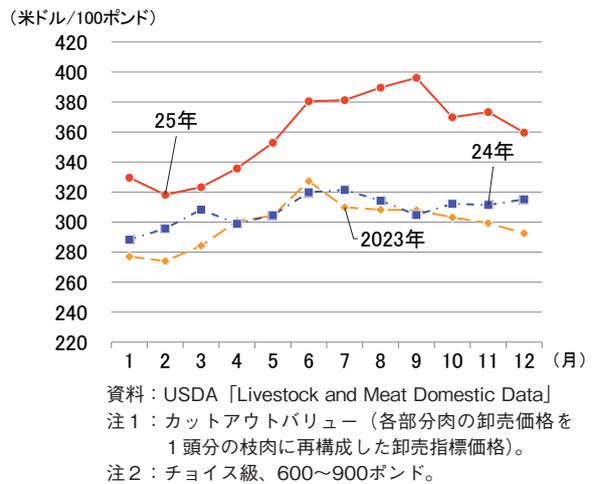
25年12月の牛肉卸売価格は前年同月をかなり大きく上回って推移

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年12月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー^(注1)）は、100ポンド当たり359.6米ドル（1キログラム当たり1226円：1米ドル＝154.66円^(注2)、前年同月比14.1%高）と前年同月をかなり大きく上回った。一方、前月の同373.3米ドル（同1273円）からは3.7%安とやや下回った（図5）。

(注1) 各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年1月末TTS相場。

図5 牛肉卸売価格の推移



25年10月の牛肉輸出量は前年同月比17.9%減

USDA/ERSによると、2025年10月の牛肉輸出量は9万1190トン（前年同月比17.9%減）と大幅に減少した（表）。中国向けは引き続き、米国内の中国向け牛肉輸出施設登録の更新が行われず、米国から中国への牛肉輸出の大部分が停止している状況にある。加えて、中国において牛肉に対する新たなセーフガード措置の実施が発表され、米国の他、豪州やブラジルなどからの牛肉輸入に対して割当数量および追加関税率が設定されたことには、各国から中国向けの牛肉輸出が抑制的に働くことが予測されている。このため、USDAは米国の主要輸出先である日本や韓国などのアジア地域において、豪州をはじめとする牛肉輸出国間での価格競争が激化すると予測している。26年の輸出量についてUSDAは、米国内の牛肉生産量の減少、米ドル高の為替相場、直近の輸出動向などを踏まえ、110万トン（前年比5.6%減）とやや減少すると見込んでいる。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2024年 10月	25年 10月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	25年 (1～10月)	
					前年同期比 (増減率)	
日本	20,153	20,885	3.6%	22.9%	238,145	▲3.3%
韓国	24,073	20,076	▲16.6%	22.0%	238,379	3.0%
メキシコ	13,025	10,453	▲19.7%	11.5%	113,507	▲11.8%
カナダ	8,673	10,062	16.0%	11.0%	90,120	▲7.4%
台湾	5,495	7,135	29.8%	7.8%	64,630	▲10.6%
香港	3,882	5,013	29.1%	5.5%	39,340	21.7%
インドネシア	2,122	2,755	29.8%	3.0%	3,414	▲76.4%
フィリピン	968	996	2.9%	1.1%	19,018	5.0%
その他	32,721	13,815	▲57.8%	15.1%	181,870	▲37.4%
合計	111,112	91,190	▲17.9%	100.0%	988,423	▲12.6%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注：枝肉重量ベース。

(調査情報部)

E U

枝肉価格の記録的な高値が継続するも、生産量は減少

25年10月の牛肉生産量、前年同月比5.8%減

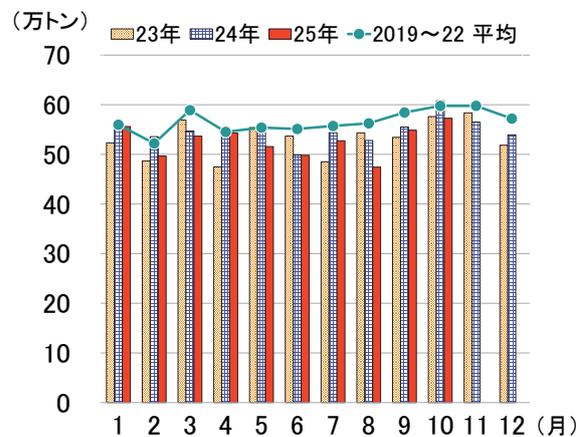
欧州委員会によると、2025年10月の牛肉生産量(EU27カ国)は57万2760トン(前年同月比5.8%減)とやや減少した(図1)。相対的に低い飼料価格や牛肉価格の高騰および若齢牛の導入が限定的であったことから、1頭当たり枝肉重量は296.5キログラム(同1.2%増)とわずかに増加したものの、飼養頭数の減少により、と畜頭数が193万1470頭(同6.9%減)とかなりの程度減少したことが影響した。また、同年1～10月の累計牛肉生産量は526万9200トン(前年同期比3.8%減)と、前年同期をやや下回った。

欧州委員会が25年12月8日に公表した農畜産物の中期的見通し(注1)によると、35年の牛肉生産量は環境規制の強化や農家の高齢化

などを背景とした飼養頭数の減少により、23～25年の平均と比べ9.2%減の610万トンとかなりの程度の減少が予測されている。

(注1) 海外情報「欧州委員会の中期需給見通し、生乳は横ばい、牛肉・豚肉は減産と予測(EU)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004260.html)をご参照ください。

図1 牛肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

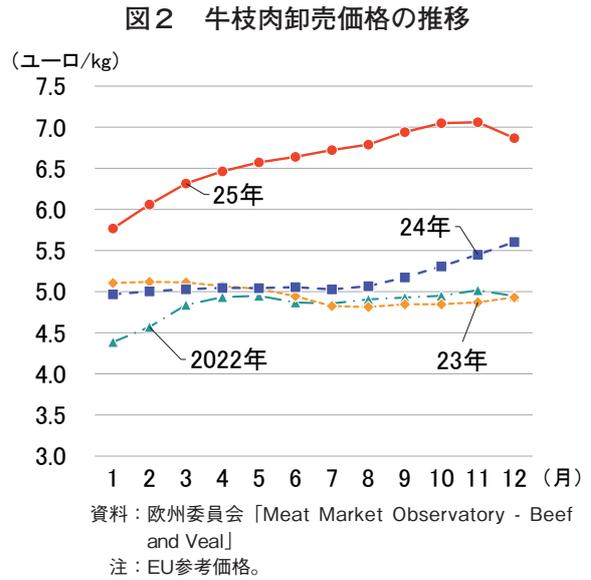
注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

25年12月の枝肉卸売価格、前年同月比22.5%高

2025年12月の牛枝肉平均卸売価格^(注2)は、1キログラム当たり6.87ユーロ（1270円、1ユーロ：184.86円^(注3)、前年同月比22.5%高）と記録的な高値が続いている（図2）。これはEU域内の需給のひっ迫によるものであるとされている。また、現地報道では、これほどの高値は通常であれば牛群拡大の動きを促すところである。しかし、環境規制やアニマルウェルフェアに関する規制の強化による投資や増頭への意欲減衰とそれに伴う牛群縮小の影響も指摘されている。

（注2）若雄牛（A）、去勢牛（C）および若齢牛（Z）のうち枝肉の格付けが上（R）、枝肉の脂肪の付着度が平均的（5段階中3）なものの平均価格（A/C/Z-R3）。
（注3）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年1月末TTS相場。



25年1～11月の牛肉輸出量は減少、輸入量は増加

2025年1～11月の牛肉輸出量は、38万8425トン（前年同期比12.2%減）とかなり大きく減少した（表1）。域内の牛肉価格が高値で推移していることから国際市場での

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

品目	輸出先	2024年 11月	25年 11月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～11月)	25年 (1～11月)	前年同期比 (増減率)
	トルコ	5,286	4,835	▲8.5%	68,586	50,703	▲26.1%
	アルジェリア	3,091	2,272	▲26.5%	26,759	26,995	0.9%
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	2,547	1,932	▲24.1%	30,761	23,662	▲23.1%
	スイス	1,240	1,230	▲0.8%	14,360	17,801	24.0%
	その他	2,850	2,179	▲23.5%	29,408	30,344	3.2%
	合計	28,755	23,833	▲17.1%	307,155	277,680	▲9.6%
冷凍	英国	5,448	4,224	▲22.5%	61,505	53,929	▲12.3%
	ガーナ	300	626	108.7%	3,724	7,393	98.5%
	カナダ	730	349	▲52.2%	6,927	5,049	▲27.1%
	スイス	269	78	▲71.0%	1,764	4,659	164.1%
	フィリピン	766	298	▲61.1%	11,680	4,372	▲62.6%
	その他	4,202	3,634	▲13.5%	49,866	35,343	▲29.1%
	合計	11,715	9,209	▲21.4%	135,466	110,745	▲18.2%
冷蔵・冷凍計		40,470	33,042	▲18.4%	442,621	388,425	▲12.2%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

価格競争力が低下し、品目別では冷蔵牛肉が同9.6%減、冷凍牛肉が同18.2%減とそれぞれ減少した。

一方、同期間の牛肉輸入量は29万4131トン(同17.1%増)と大幅に増加した(表2)。

これを品目別に見ると、冷蔵牛肉は同6.2%増、冷凍牛肉は同38.8%増となった。前述の通り域内需給のひっ迫により牛肉価格が史上最高水準に達する中、主要輸入先である南米からの輸入が増加している。

表2 輸入先別牛肉輸入量の推移

(単位：トン)

品目	輸入先	2024年 11月	25年 11月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～11月)	25年 (1～11月)	前年同期比 (増減率)
冷蔵	英国	6,270	5,187	▲17.3%	58,011	54,198	▲6.6%
	アルゼンチン	4,506	5,509	22.3%	43,598	50,617	16.1%
	ウルグアイ	1,351	782	▲42.1%	20,536	25,728	25.3%
	ブラジル	2,244	2,941	31.1%	17,083	20,686	21.1%
	米国	1,029	1,134	10.2%	11,448	11,059	▲3.4%
	その他	1,199	1,437	19.8%	15,908	14,554	▲8.5%
	合計	16,599	16,990	2.4%	166,584	176,842	6.2%
冷凍	ブラジル	3,539	7,262	105.2%	36,597	53,699	46.7%
	英国	1,920	2,069	7.8%	15,521	21,157	36.3%
	ウルグアイ	932	1,074	15.2%	11,372	17,143	50.7%
	アルゼンチン	839	311	▲62.9%	5,064	7,806	54.1%
	ナミビア	444	656	47.7%	4,793	5,862	22.3%
	その他	1,415	1,212	▲14.3%	11,164	11,622	4.1%
	合計	9,089	12,584	38.5%	84,511	117,289	38.8%
冷蔵・冷凍計		25,688	29,574	15.1%	251,095	294,131	17.1%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

(調査情報部)

豪州

25年の牛肉輸出は過去最高を記録、業界は対中国輸出の動向を注視

26年1月若齢牛価格、記録的な高温により下落傾向も需要は継続

豪州食肉家畜生産者事業団 (MLA) によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標 (EYCI) 価格は、直近2026年1月30日時点で1キログラム当たり840豪セント (924円: 1豪ドル= 109.96円^(注1))

と高水準を推移しているものの、1月中旬から緩やかに下落している (図1)。

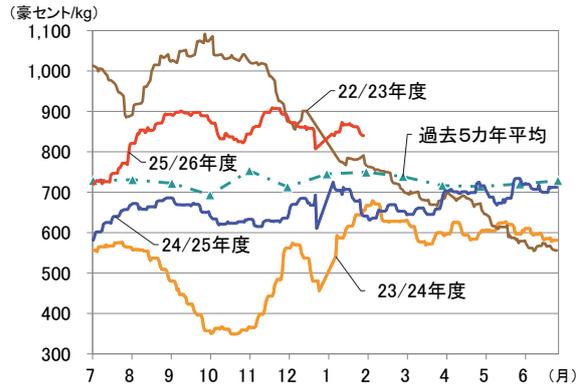
MLAや業界アナリストによると、豪州東部全域で続く記録的な高温により、一部の競売場がアニマルウェルフェアの観点から閉鎖され、牛の出荷頭数が減少していることが価格に影響していると報じられている (図2)。

一方、報道情報によると、主要な肉用牛

生産地域であるクィーンズランド（QLD）州では、好天で牧草生育が順調なことから、牧草肥育用の去勢牛の需要が高まり、局所的に牛の価格も上昇していると報じられている。今後、ブラジル産牛肉との競合や中国の新たなセーフガード措置（注2）に対して市場がどのように反応していくか、業界も動向を注視している状況にある。

（注1）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年1月末TTS相場。
 （注2）詳細は海外情報「中国の新たなセーフガード措置に対する豪州の反応（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004262.html）をご参照ください。

図1 EYCI価格の推移

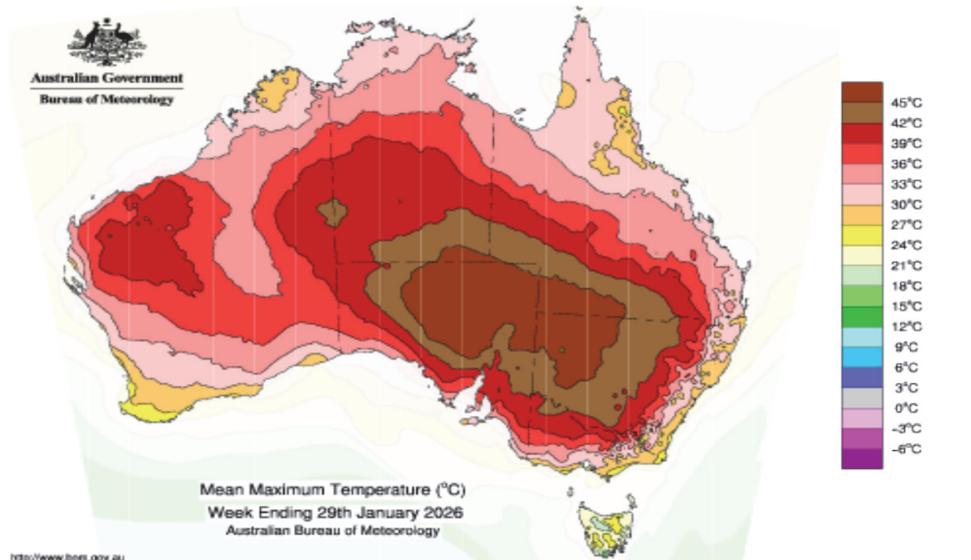


資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クィーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格（枝肉重量ベース）。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

図2 豪州の2026年1月第5週の平均最高気温



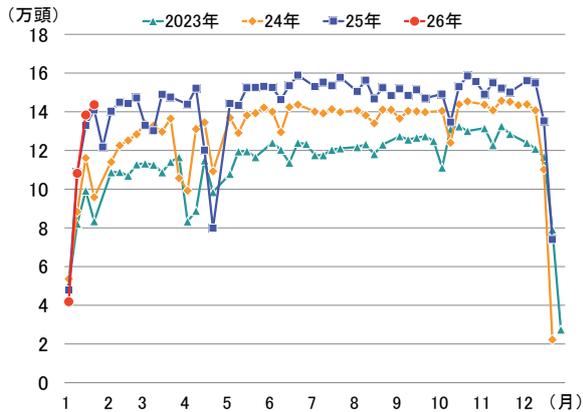
資料：豪州気象局（BOM）のウェブサイトから引用
 注：2026年1月23日から29日までの平均最高気温。

26年1月成牛と畜頭数、年初から高水準を維持して推移

2026年1月第4週の成牛と畜頭数は、14万3640頭（前年同期比1.9%増）と、昨年に引き続き年初から高水準で推移している（図3）。

一部の食肉加工業者は、中国の新たなセーフガード措置の割当数量が埋まる前に、単価が高い中国向けの穀物肥育牛肉を優先して処理しているとされており、処理頭数にも影響を与えていると報じられている。

図3 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」
 注1：成牛のみ（子牛は含まない）。
 注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

25年牛肉輸出量は最高記録を更新、中国の輸入規制への対応を検討

豪州農林水産省（DAFF）によると、2025年12月の牛肉輸出量は14万7533トン（前年同月比15.8%増）とかなり大きく増加し、25年の累計は154万5760トン（同15.0%増）と過去最高値を記録した（表）。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名・地域	2024年 12月	25年 12月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～12月)	
				前年同期比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
米国	42,158	41,225	▲2.2%	453,305	14.8%
中国	23,860	29,878	25.2%	272,937	41.3%
日本	18,082	22,632	25.2%	257,377	3.9%
韓国	18,496	21,138	14.3%	221,349	10.4%
東南アジア	12,438	14,198	14.2%	141,014	▲7.6%
中東	2,863	3,488	21.8%	40,521	10.6%
E U	820	1,774	116.3%	24,502	87.5%
その他	8,676	13,200	52.1%	134,755	28.0%
輸出量合計	127,393	147,533	15.8%	1,545,760	15.0%

資料：DAFF
 注1：船積重量ベース。
 注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。
 注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ））。

今後の輸出見通しについては、米国内の牛肉需給動向と中国の新たなセーフガード措置が大きな焦点となっている。

現地報道によると、米国の肥育牛出荷頭数はいまだ低水準にあり、米国内の牛肉供給の不足傾向は継続していることから、引き続き豪州産牛肉の需要は高いとされている。また、競合国であるブラジルが利用する米国向け牛肉の低関税複数国枠が既に全量埋まったこと

から、豪米間のFTA（自由貿易）枠を利用できる豪州の優位性は高まっていると報じられている。

中国の新たなセーフガード措置について、豪州に対する26年の割当数量20万5000トンを超過した分については、55%の関税率が適用されることから、25年の輸出量を踏まえれば、代替市場への転換が約7万トン分必要となる可能性がある。現地アナリストに

よると、業界は自主的な割当管理制度を導入し、中国向け輸出のタイミングと価値を最適化する方策を協議中とされている。また、二次的な影響として、同様に輸出実績より少ない割当数量となったブラジル産牛肉との代替市場での競争激化が懸念されており、ブラジ

ルも同様に割当管理制度の導入を検討していることから、その時期によって同措置の影響が顕在化するタイミングが早まると分析されている。

(調査情報部)

N Z

25/26年度の牛肉生産量と輸出量、前年割れの見込み

25年11月の牛と畜頭数、前年同月比5.1%減

ニュージーランド統計局 (Stats NZ) によると、2025年11月の牛と畜頭数は21万9054頭 (前年同月比5.1%減) と前年同月をやや下回った (図)。と畜頭数の内訳を見ると、未經産牛が6万2309頭 (同2.8%増) と増加した一方で、去勢牛が6万7671頭 (同4.4%減)、雄牛が5万9834頭 (同7.8%減)、経産牛が2万9240頭 (同15.4%減) と、いずれも減少した。また、2025/26年度 (10月～翌9月) の開始2カ月 (10～11月) の累計では、35万6618頭 (前年同期比13.9%減) とかなり大きく減少した。この

要因として、1) 酪農部門では、高い水準で推移した生産者支払乳価^(注1)により経産牛の保留傾向が強まっていること、2) 肉牛部門では、天候に恵まれて牧草生育が順調だったことで、肉牛の増体率向上を目的とした保留傾向が強まったことなどが影響しているとみられる。

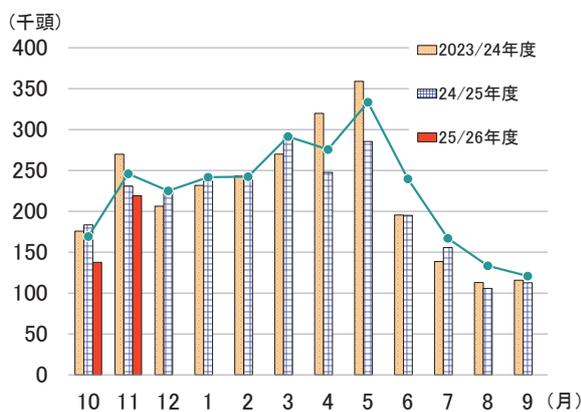
(注1) 海外情報「フォンテラ社、24/25年度乳価の据え置きと、25/26年度当初乳価を発表 (NZ)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004130.html) をご参照ください。

25年12月の牛肉輸出量、前年同月比1.1%減

Stats NZによると、2025年12月の牛肉輸出量は4万7771トン (前年同月比1.1%減) と前年同月をわずかに下回った (表1)。この要因として、と畜頭数の減少が輸出量の減少につながったとみられる。輸出先別に見ると、米国向けは1万6642トン (同16.0%減)、中国向けは1万1146トン (同26.3%減) と、いずれも大幅に減少した。一方で、カナダ向けは5569トン (同79.4%増)、日本向けは2816トン (同46.6%増) といずれも増加した。

特に中国向けは、同国内の牛肉生産量の増加などにより、牛肉需給が緩和傾向とされる

図 牛と畜頭数の推移



資料: Stats NZ

注: 年度は10月～翌9月。

中で、輸出量が減少したとみられる。NZ政府のマクレイ貿易相は26年1月1日、中国による新たなセーフガード措置^(注2)の影響について、「今回の新たなセーフガード措置は歓迎されないものの、過去2年間の中国への牛肉輸出量（年間約15万トン）に比べて割当

数量は大きく、NZ産牛肉輸出への影響は受けにくい」とし、「中国と協力し、円滑な実施と貿易拡大の機会を模索していく」と述べている。

(注2) 海外情報「中国の新たなセーフガード措置に対する豪州の反応（豪州）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004262.html) をご参照ください。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2024年 12月	25年 12月	前年同月比 (増減率)	25/26年 (10月～12月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
米国	19,804	16,642	▲16.0%	31,428	▲22.5%
冷蔵	1,178	991	▲15.9%	2,625	▲1.9%
冷凍	18,626	15,651	▲16.0%	28,803	▲23.9%
中国	15,131	11,146	▲26.3%	24,109	▲30.0%
冷蔵	821	529	▲35.6%	1,436	▲26.7%
冷凍	14,310	10,617	▲25.8%	22,672	▲30.2%
カナダ	3,104	5,569	79.4%	11,364	43.0%
冷蔵	132	254	91.5%	732	127.9%
冷凍	2,972	5,315	78.8%	10,631	39.5%
日本	1,920	2,816	46.6%	6,008	14.9%
冷蔵	634	665.9	5.0%	1,653	▲21.8%
冷凍	1,286	2,150	67.2%	4,355	39.9%
韓国	1,957	2,219	13.4%	4,129	▲0.8%
冷蔵	—	—	—	—	—
冷凍	1,956	2,219	13.4%	4,129	▲0.8%
その他	6,394	9,380	46.7%	25,148	31.1%
冷蔵	1,576	2,441	54.9%	5,624	39.8%
冷凍	4,818	6,939	44.0%	19,525	28.8%
合計	48,309	47,771	▲1.1%	102,187	▲8.3%
冷蔵	4,342	4,880	12.4%	12,071	8.8%
冷凍	43,968	42,890	▲2.5%	90,116	▲10.2%

資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

注1：船積重量ベース。

注2：年度は10月～翌9月

25/26年度の輸出向け牛肉生産量はわずかに減少見込み

ビーフ・アンド・ラム・ニュージーランド(BLNZ)が公表した直近の2025/26年度牛肉需給見通しによると、同年度の輸出仕向け牛と畜頭数は246万頭（前年度比1.6%減）とわずかな減少が見込まれている（表2）。BLNZによると、酪農部門は、24/25年度の生産者支払乳価が高い水準で推移していたことで、経産牛の保留傾向が強まったこと

から、25/26年度はこれらの出荷の増加が見込まれている。肉牛部門は、去勢牛と雄牛のと畜頭数は増加が見込まれるものの、24/25年度に記録的水準となった未經産牛のと畜頭数減少が見込まれている。これらにより、同年度の牛肉生産量は63万3000トン（同1.4%減）、牛肉輸出量は45万4000トン（同1.5%減）と、いずれも前年割れが見込まれている。なお、24/25年度の輸出向け牛の枝肉重量は、前年度並みと見込まれている。

表2 輸出向け牛と畜頭数などの見通し

項目	単位	2022/23年度	23/24年度	24/25年度	25/26年度	前年度比 (増減率)
と畜頭数	千頭	2,677	2,577	2,499	2,460	▲1.6%
うち去勢牛	千頭	654	652	592	596	0.7%
未経産牛	千頭	524	531	558	485	▲13.1%
雄牛	千頭	503	449	433	437	0.9%
経産牛	千頭	996	944	916	941	2.7%
生産量	千トン	696	678	642	633	▲1.4%
うち去勢牛	千トン	206	208	185	187	1.1%
未経産牛	千トン	133	136	139	121	▲12.9%
雄牛	千トン	154	140	132	133	0.8%
経産牛	千トン	203	194	186	192	3.2%
1頭当たり枝肉重量	キログラム	260	263	257	257	0.0%
輸出量	千トン	496	486	461	454	▲1.5%
輸出金額	百万NZドル	4,380	4,276	4,955	4,924	▲0.6%
輸出単価	NZドル/トン	8,839	8,793	10,756	10,843	0.8%

資料：BLNZの資料を基に機構作成

注1：と畜頭数、生産量、1頭当たり枝肉重量の2024/25年度は推定値、25/26年度は予測値。

注2：生産量は枝肉重量ベース。輸出量は船積重量ベース。

注3：年度は10月～翌9月。

(調査情報部)

豚 肉

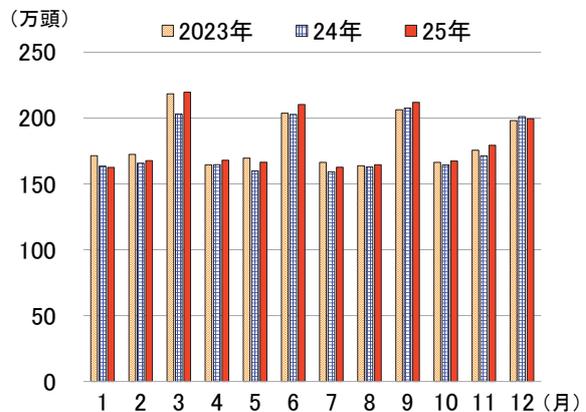
カナダ

25年の豚と畜頭数、処理能力の向上などにより前年比2.5%増

25年の豚と畜頭数、前年比2.5%増

カナダ農務・農産食品省（AAFC）によると、2025年12月の豚と畜頭数は199万4000頭（前年同月比0.8%減）とわずかに減少した（図1）。一方、同年1～12月の累計では、2179万9000頭（前年比2.5%増）とわずかに増加した（図2）。これは、カナダ西部における処理能力の向上に加え、東部では豚肉大手の工場閉鎖が豚と畜場の再編と集約化につながり、国内全体の施設稼働率が上昇したことが影響しているとみられる。

図1 豚と畜頭数の推移（月次）



資料：AAFC「Hog Slaughtering at Federally and/or Provincially Inspected Packing Plants」

26年のカナダの豚肉生産量について米国農務省海外農務局（USDA/FAS）は、と畜頭数の増加（同0.5%増）などから216万トン（同0.7%増）とわずかな増加を見込んでいる。

図2 豚と畜頭数の推移（年次）



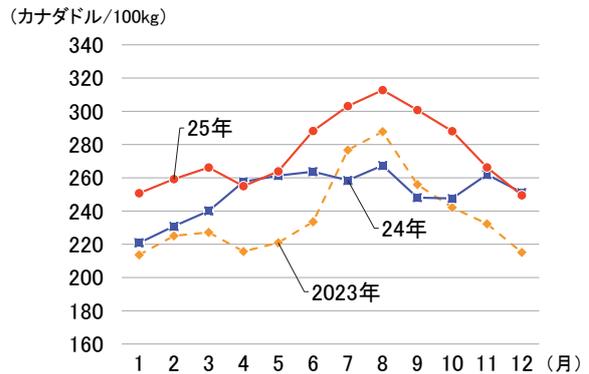
資料：AAFC [Hog Slaughtering at Federally and/or Provincially Inspected Packing Plants]

25年12月の肥育豚価格、前年同月比0.7%安

AAFCによると、2025年12月の肥育豚価格は、夏場に高値で推移していた米国の肥育豚価格^(注1)が需給の緩和に伴い下落する中で、100キログラム当たり250カナダドル（1キログラム当たり288円：1カナダドル＝115.28円^(注2)、前年同月比0.7%安）とわずかに下落した（図3）。一方、同年1～12月の平均価格は、同275カナダドル（1キログラム当たり317円、前年比9.8%高）とかなりの程度前年を上回った。

(注1) カナダの肥育豚価格は一般的に、米国の肥育豚価格に基づいて算定されるため、同価格の変動による影響を受ける。詳細は『畜産の情報』2019年11月号「カナダ豚肉産業にみる多様性と肥育豚価格の算定方式をめぐる議論（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_000834.html）」をご参照ください。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年1月末TTS相場。

図3 肥育豚価格の推移



資料：AAFC [Hog Weighted Average Price Report]
注：枝肉重量ベース。

25年10月の豚肉輸出量、前年同月比4.6%減

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2025年10月の豚肉輸出量は9万100トン（製品重量ベース、前年同月比4.6%減）とやや減少し、同年1～10月の累計では87万1195トン（前年同期比7.7%減）とかなりの程度減少した（表）。

10月の輸出量を輸出先別に見ると、米国向けは2万6128トン（同8.1%増）、日本向けは2万4016トン（同4.9%増）、メキシコ向けは1万5543トン（同20.3%増）と、主要輸出先における需要の底堅さを反映し、いずれも前年同月を上回った。

一方、中国は同年3月20日以降、カナダ産豚肉に対して25%の追加関税を課しており^(注3)、同国向けの輸出量は3968トン（同64.9%減）、フィリピンについてはブラジルからの輸入量が増加する中で2681トン（同54.0%減）と、いずれも大幅に減少した。

(注3) カナダ政府が2024年10月以降、中国製の電気自動車や鉄鋼、アルミニウム製品の輸入に追加関税を課したことを受けて採られた措置の一部となっている。

表 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2024年 10月	25年 10月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	25年 (1～10月)	
					前年同期比 (増減率)	
米国	24,172	26,128	8.1%	29.0%	223,001	▲4.2%
日本	22,888	24,016	4.9%	26.7%	244,549	18.8%
メキシコ	12,925	15,543	20.3%	17.3%	148,064	16.4%
韓国	4,831	6,014	24.5%	6.7%	57,792	▲6.7%
台湾	3,964	4,117	3.9%	4.6%	34,315	7.6%
中国	11,309	3,968	▲64.9%	4.4%	41,022	▲56.4%
コロンビア	3,072	3,289	7.1%	3.7%	21,026	9.3%
フィリピン	5,824	2,681	▲54.0%	3.0%	54,989	▲28.7%
その他	5,443	4,344	▲20.2%	4.8%	46,437	▲50.4%
合計	94,428	90,100	▲4.6%	100.0%	871,195	▲7.7%

資料：Statistics Canada
注1：HSコード0203。
注2：製品重量ベース。

(調査情報部)

チリ

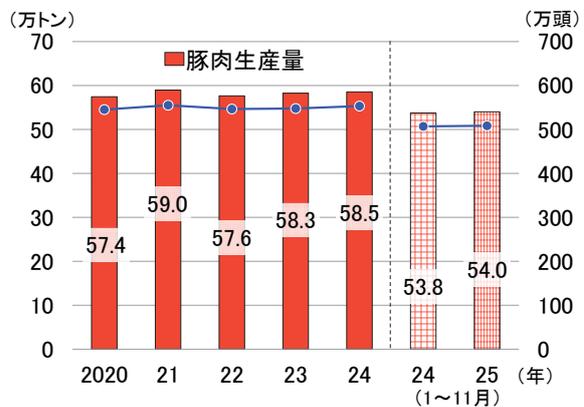
25年1～11月の豚肉生産量は微増ながら、輸出量は減少

25年1～11月の豚肉生産量は前年同期比0.5%増

チリ農業省農業政策・調査局（ODEPA）によると、2025年1～11月の豚と畜頭数は508万4000頭（前年同期比0.3%増）と前年同期並みとなり、豚肉生産量は54万トン（同0.5%増）と前年同期をわずかに上回った（図1）。

米国農務省（USDA）は、少なくとも過去10年間でチリの豚肉処理施設が増加しておらず、短期的に見ても新たな建設計画はないことから、25年の豚肉生産量は横ばいになると見込んでいる。また、26年については、穀物などの飼料原料の輸入が順調に行われ、配合飼料の最適化が進むことで生産性が向上し、豚肉生産量は59万トンとわずかに増加すると予測している。

図1 豚肉生産量および豚と畜頭数の推移



資料：ODEPA
注：枝肉重量ベース。

25年1～11月の豚肉輸出量は前年同期比6.4%減

2025年1～11月の豚肉輸出量は、17万715トン（前年同期比6.4%減）と前年同期をかなりの程度下回った（表）。輸出先別に見ると、輸出量の約3割を占める中国向けは、

5万8359トン（同6.3%減）、約2割を占める韓国向けは3万2856トン（同8.7%減）、同じく約2割を占める日本向けは3万2487トン（同16.1%減）と、上位3カ国は前年同期を下回った。一方で、コロンビアやコス

タリカなど、ラテンアメリカへの輸出量は前年同期を上回った。

USDAによると、韓国および日本向けの輸出量の減少は、これらの市場での競争の激化が要因とされている。

表 輸出先別豚肉輸出の推移

国名	2024年（1～11月）			25年（1～11月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/kg）	輸出量	輸出額	単価
中国	62,286	97,153	1.56	58,359	87,909	1.51	▲6.3%	▲9.5%	▲3.4%
韓国	35,971	170,508	4.74	32,856	158,691	4.83	▲8.7%	▲6.9%	1.9%
日本	38,733	164,232	4.24	32,487	132,085	4.07	▲16.1%	▲19.6%	▲4.1%
コロンビア	11,165	29,578	2.65	13,383	36,250	2.71	19.9%	22.6%	2.2%
コスタリカ	9,847	31,983	3.25	12,087	41,620	3.44	22.8%	30.1%	6.0%
ペルー	3,978	12,490	3.14	4,254	13,380	3.14	6.9%	7.1%	0.2%
メキシコ	2,914	6,510	2.23	4,069	7,965	1.96	39.6%	22.3%	▲12.4%
ドイツ	2,605	14,236	5.47	2,656	13,090	4.93	2.0%	▲8.1%	▲9.8%
その他	14,871	48,535	3.26	10,564	37,367	3.54	▲29.0%	▲23.0%	8.4%
合計	182,370	575,226	3.15	170,715	528,356	3.09	▲6.4%	▲8.1%	▲1.9%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード0203。

注2：輸出量は製品重量ベース。

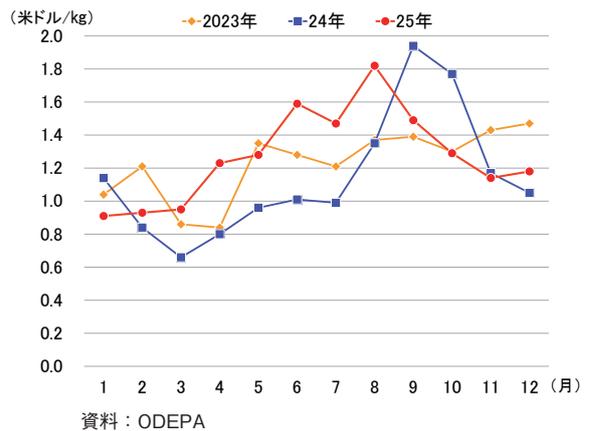
25年12月の肉豚生産者販売価格は前年同月比12.4%高

ODEPAによると、2025年12月の肉豚生産者販売価格は、1キログラム当たり1.18米ドル（182円：1米ドル＝154.66円^注、前年同月比12.4%高）と前年同月をかなり大きく上回った（図2）。

25年の価格の推移を見ると、1月から3月にかけては同1米ドルを下回る水準であったものの、4月には同1.23米ドルに上昇、現地では冬季となる6月に同1.59米ドル、8月には年内最高値となる同1.82米ドルを記録した。しかし、9月以降は下落基調となり、11月に同1.14米ドルまで下落したのち、12月に小幅な反発を見せた。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年1月末のTTS相場。

図2 肉豚生産者販売価格の推移



資料：ODEPA

（調査情報部）

牛乳・乳製品

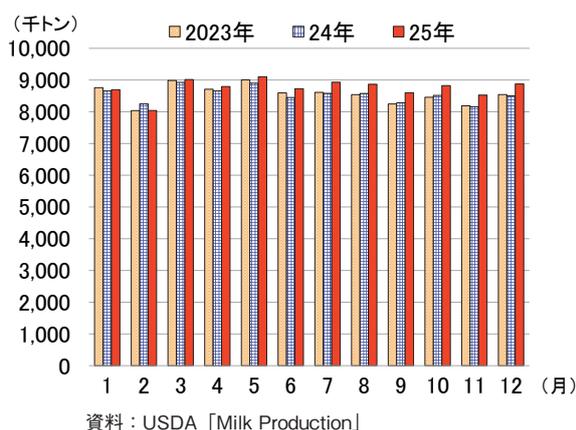
米 国

25年12月の生乳生産量は増加、チーズの輸出量が過去最高を記録

25年12月の生乳生産量は前年同月比4.4%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年12月の乳用経産牛飼養頭数は956万7000頭（前年同月比2.3%増）とわずかに増加した。同月の生乳生産量は、乳用経産牛飼養頭数および1頭当たり乳量（同2.0%増）の増加により、887万6000トン（同4.4%増）とやや増加した（図1）。米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、26年の生乳生産量は1億627万7000トン（前年比1.3%増）と見込んでいる。

図1 生乳生産量の推移



25年12月のバター卸売価格は前年同月比43.0%安

米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、2025年12月の1ポンド当たりの卸売価格は、バターが前年同月比43.0%安の1.44米ドル（1キログラム当たり

492円：1米ドル＝154.66円（注）、チーズが同23.7%安の1.37米ドル（同467円）とそれぞれ前年同月を大幅に下回った（図2、3）。バター、チーズともに堅調な生乳生産による供給過多や国内需要が軟調であることを背景に、卸売価格は下落傾向で推移している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2026年1月末TTS相場。

図2 バターの卸売価格

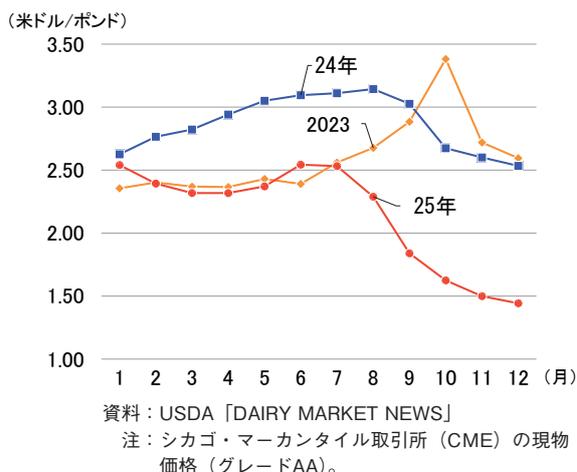
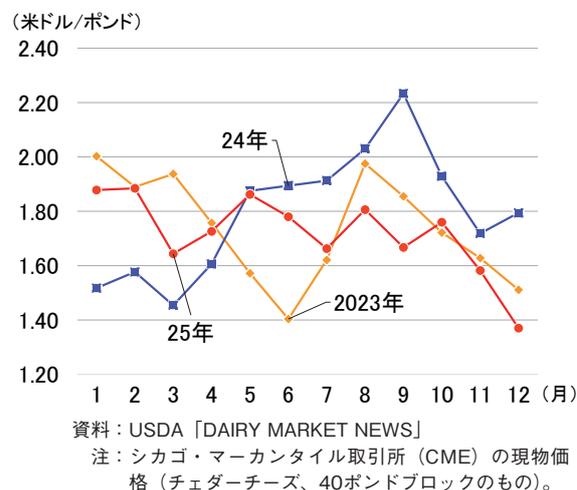


図3 チーズの卸売価格



25年10月の乳製品輸出量、チーズが過去最高を記録

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年10月の乳製品輸出量は、乳脂肪分ベースでは前年同月比50.0%増と大幅に、無脂肪分ベースでも同0.9%増とわずかに、いずれも増加した。

品目別に見ると、脱脂粉乳（NDM）は6万1523トン（同0.3%増）と前年同月並みとなった（表）。チーズは、新規加工施設の稼働などを背景に生産量が増加している

チェダーをはじめとするすべての種類で輸出が増加しており、5万5061トン（同35.8%増）と過去最高を記録した。ホエイは、コロンビアとチリに加え、中国からの需要が高まったことにより、1万7560トン（同19.9%増）と大幅に増加した。また、バターは国内生産量の約7%を輸出に仕向け、7382トン（同約2.7倍）と大幅に増加した。輸出量の約8割は、カナダ、サウジアラビアなど6カ国が占めているものの、残りの2割は数十カ国にわたっており、米国産バターの輸出先が多様化していることがうかがえる。

表 主要乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2024年 10月	25年 10月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～10月)	
				前年同期比 (増減率)	
脱脂粉乳	61,310	61,523	0.3%	560,994	▲12.2%
チーズ	40,534	55,061	35.8%	508,138	19.0%
乳糖	36,163	33,114	▲8.4%	338,673	▲1.3%
ホエイ	14,640	17,560	19.9%	164,813	6.6%
WPC	11,861	9,453	▲20.3%	102,980	▲20.7%
バター	2,732	7,382	170.2%	61,609	140.1%

資料：USDA「Dairy Data」
注：製品重量ベース。

（調査情報部）

EU

生乳取引価格、2カ月連続で前年同月を下回る

25年11月の生乳出荷量は前年同月比4.9%増

欧州委員会によると、2025年11月の生乳出荷量（EU27カ国）は1165万トン（前年同月比4.9%増）となり、前年同月をやや上回った（図1、表）。現地報道では、1）堅調な生乳取引価格、2）飼料価格の低下と

質量ともに良質な粗飼料生産、3）安定している乳牛飼養頭数一が影響しているとみられている。

生乳出荷量を主要生産国別に見ると、ドイツ（同7.5%増）、フランス（同6.3%増）、オランダ（同7.3%増）、ポーランド（同4.2%増）、イタリア（同3.4%増）と上位の生産国が軒並み前年同月を上回った。一方、

アイルランド（同2.3%減）は前年同月を下回ったが、同国については欧州委員会が12月22日に硝酸塩指令に基づく適用除外措置を26年1月1日から3年間延長することを決定しており、今後の生乳出荷量への影響が注目される。

なお、同委員会によれば、11月の乳脂肪分は4.31%（同0.02ポイント増）、無脂乳固形分は3.58%（同0.02ポイント増）であり、両乳固形分は1～11月の全ての月で前年同月を上回った。

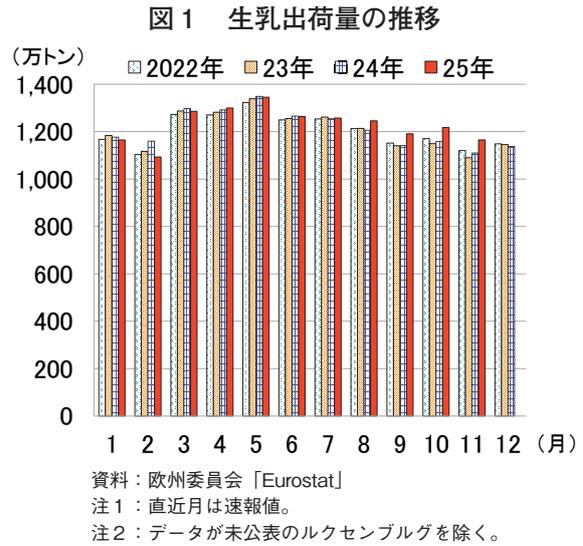


表 主要生産国別生乳出荷量の推移

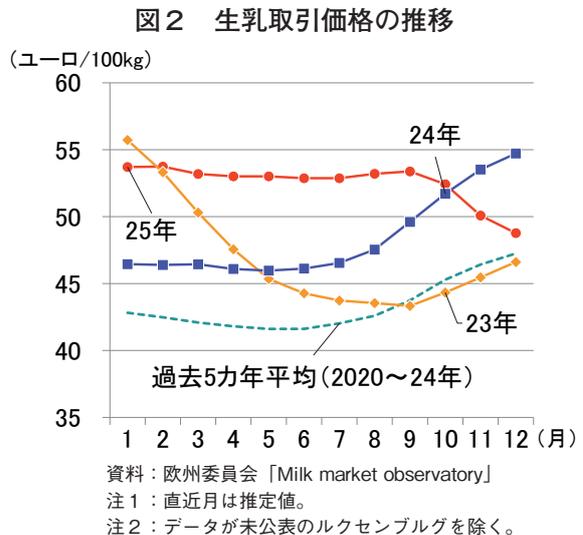
（単位：万トン）

国名	2024年 11月	25年 11月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～11月)	
				前年同期比 (増減率)	前年同月比 (増減率)
ドイツ	246	264	7.5%	2,968	0.3%
フランス	184	196	6.3%	2,208	1.4%
オランダ	107	114	7.3%	1,271	1.5%
ポーランド	104	109	4.2%	1,263	1.8%
イタリア	100	103	3.4%	1,174	▲1.6%
アイルランド	53	52	▲2.3%	883	5.1%
その他	316	326	3.3%	3,759	0.4%
合計	1,110	1,165	4.9%	13,527	0.9%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注1：直近月は速報値。
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。
注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

25年12月の生乳取引価格は前年同月比10.9%安

欧州委員会によると、2025年12月の生乳取引価格（EU27カ国平均）は、100キログラム当たり48.77ユーロ（1キログラム当たり90円：1ユーロ＝184.86円^{（注1）}、前年同月比10.9%安）となり、2カ月連続で前年同月を下回った（図2）。ホエイを除く乳製品価格の下落を背景に、生乳取引価格も下落傾向で推移している。



（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年1月末TTS相場。

多くの乳製品価格、前年同期を大幅に下回る

欧州委員会によると、2026年1月18日の週の製品別乳製品価格（EU27カ国平均）は、バターが100キログラム当たり429ユーロ（1キログラム当たり793円、前年同期比42.0%安）、全粉乳が同305ユーロ（同564円、同28.8%安）、脱脂粉乳が同208ユーロ（同385円、同17.7%安）、チーズが同373ユーロ（同690円、同21.9%安）と、いずれも前年同期を大幅に下回った。一方でホエイは同107ユーロ（同198円、同9.0%高）と上昇傾向が続いている（図3）。

生乳出荷量の増加により在庫可能な製品の生産量が増加しており、25年11月はバターが17万1100トン（前年同月比9.4%増）とかなりの程度増加したほか、脱脂粉乳は10万2300トン（同18.7%増）と大幅に、チーズは79万8900トン（同2.4%増）とわずかに増加した。これらの増産が乳製品価格の下落につながっているとみられる。

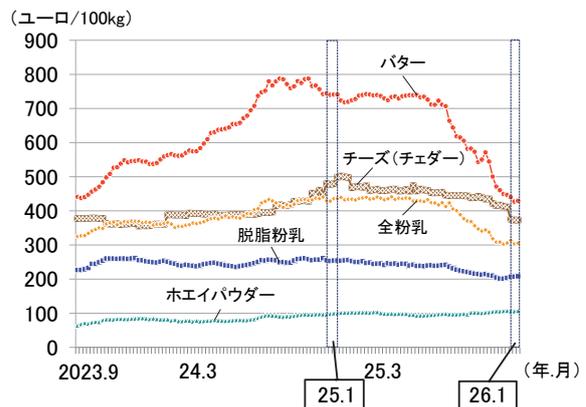
さらに米国産バターの価格下落も、EU産バター価格の下落に影響している。現地報道によれば、直近では米国のバター価格に上昇

傾向が見られるものの、ユーロに対するドル安によりEU産乳製品の価格競争力は低下しているという。

なお、中国商務部は12月23日からEU産のミルク・クリームおよびチーズに対し反補助金保証金の納付を求めており^(注2)、今後のEU産乳製品の輸出および価格動向が注目される。

(注2) 詳細については、海外情報「EU産乳製品に対し中国が反補助金関税を暫定的に開始（EU、中国）」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004282.html)をご参照ください。

図3 乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

(調査情報部)

N Z

生乳生産量は8カ月連続で前年同月を上回って推移

25年12月の生乳生産量、前年同月比2.5%増

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2025年12月の生乳生産量は271万4000トン（前年同月比2.5%増）と、8カ月連続で前年同月を上回った（図1）。また、

2025/26年度（6月～翌5月）の12月までの生乳生産量も、1316万1000トン（前年比2.5%増）と前年度を上回って推移している。

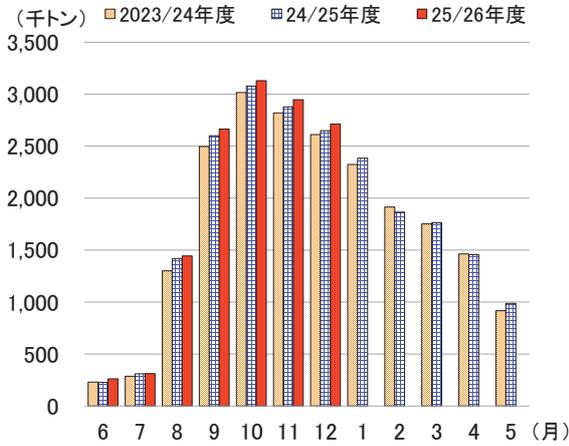
この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、1）12月初めの気候は高温乾燥であったが、月末にかけてサイクロン

級の低気圧による降雨で乾燥状態が緩和され、牧草の生育に適した状況になったこと、

2) 酪農家は補助飼料の備蓄が十分であること一が増加につながったとしている。

今後の生乳生産の見通しについてNZXは、天候により牧草生育が左右されるものの、前年をわずかに上回って推移すると予想している。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ「New Zealand Monthly Milk Production Report」
注：年度は6月～翌5月。

25年12月の乳製品輸出量、主要4品目で増加

ニュージーランド統計局 (Stats NZ) によると、2025年12月の乳製品輸出量は、主要4品目がいずれも前年同月を上回った (表、図2)。品目別に見ると、脱脂粉乳はインドネシア、ベトナム向け、全粉乳はアルジェリア

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

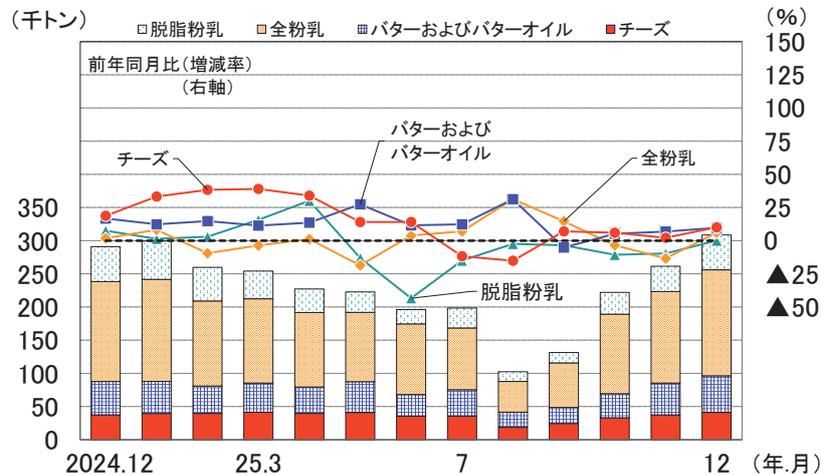
品目	2024年12月	25年12月	前年同月比 (増減率)	25/26年度 (6～12月)	
				25/26年度 (6～12月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	52,532	52,551	0.0%	183,662	▲7.2%
全粉乳	150,692	159,747	6.0%	624,287	1.5%
バターおよびバターオイル	50,285	55,157	9.7%	226,230	8.8%
チーズ	37,399	41,149	10.0%	189,935	▲0.0%

資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出量および前年同月比 (増減率) の推移



資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

注：製品重量ベース。

向け、バターおよびバターオイル、チーズは中国向けが、いずれも増加した。年度累計(25年6～12月)では、全粉乳、バターおよびバターオイルが前年同期を上回った。

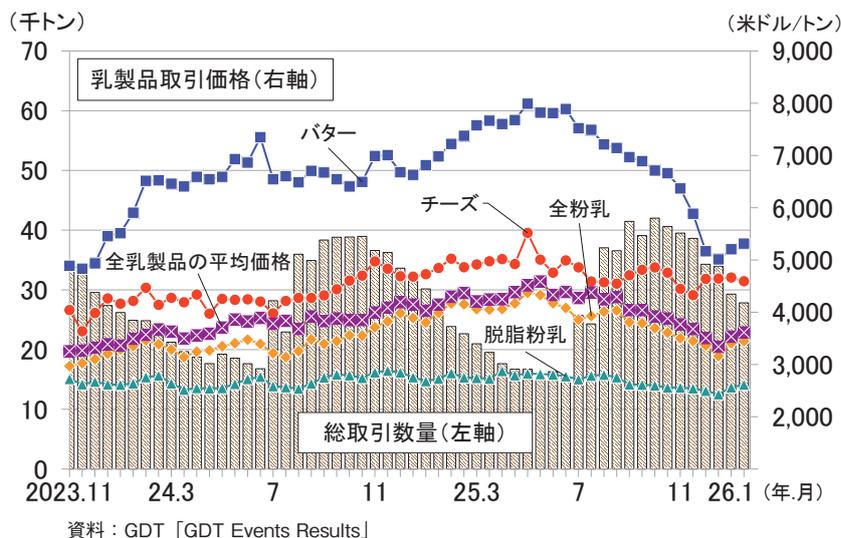
26年1月20日のGDT平均価格、チーズを除き前回を上回る

2026年1月20日開催のGDT^(注1)平均取引価格は、チーズを除く主要3品目が前回開催時(26年1月6日)を上回った(図3)。取引全体では、全乳製品の平均取引価格は

1トン当たり3615米ドル(55万9096円、1米ドル=154.66円^(注2)、前回比2.3%高)とわずかに上昇した。NZや米国など主要乳製品生産地域での堅調な生産により供給が増加する中、価格が下落傾向となりアフリカからの全粉乳の需要が高まったことなどが寄与した。

(注1) グローバルデリートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年1月末TTS相場。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT「GDT Events Results」

(調査情報部)

中国

25年の生乳生産量は前年並み、生乳価格は下げ止まり

25年の生乳生産量、前年比0.3%増

中国国家统计局によると、2025年の生乳生産量は前年比0.3%増の4091万トンと、前年並みとなった(図1)。

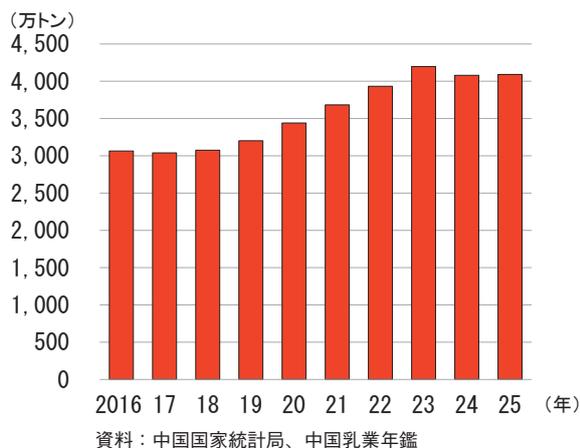
中国農業農村部は25年4月、25年の生乳等生産量^(注1)を同0.5%増の4100万トンと

する予測を公表しており^(注2)、おおむね予測通りの結果となった。

(注1) 牛由来の生乳のほか、ヤギやヤクなどの他畜種由来の乳を含む生産量。

(注2) 海外情報「中国農業展望報告(2025-2034)」を発表(牛乳・乳製品編)(中国) (https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004144.html) をご参照ください。

図1 生乳生産量の推移

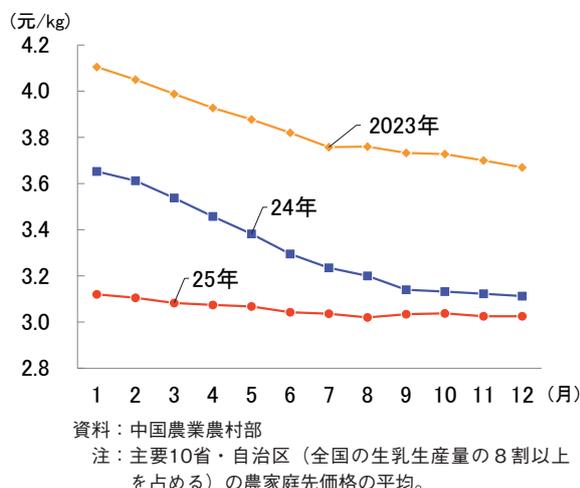


25年12月の生乳価格、前年同月比2.8%安

中国農業農村部によると、2025年12月の生乳価格は1キログラム当たり3.03元（68円：1元＝22.41円^(注3)、前年同月比2.8%安）とやや下回った（図2）。一方、25年6月以降、生乳価格は3.02～3.04元（68円前後）の間で推移するなど、下げ止まっている。

（注3）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年1月末TTS相場。

図2 生乳価格の推移



この要因について同部は、26年1月に公表した「農産物需給動向分析月報（2025年12月）」（以下「報告」という）の中で、1）生産性の低い乳用牛を淘汰^{とうた}することで生乳生産量の最適化が進んだこと、2）春節（旧正月。26年は2月17日）に向けた牛乳・乳製品の備蓄需要期を迎えたこと一などから、生乳の生産と消費の均衡がとれてきたためとしている。

25年の乳製品輸入量、チーズやバターなどで増加

2025年の主要乳製品9品目の輸入量は、チーズ、バター、育児用調製粉乳およびホエイの4品目で増加した（表）。この要因について報告では、1）ペーカリーや茶、コーヒーなどのドリンクショップの急速な拡大を受けてチーズおよびバターの需要が増加したこと、2）海外製の高品質な育児用調製粉乳の需要が増加したこと一を挙げている。また、ホエイは、豚飼養頭数が25年を通して高水準で推移したことにより、飼料向け需要が増加したためとみられる^(注4)。

なお、中国商務部は2026年2月13日から5年間、EU産の一部乳製品^(注5)に対して7.4%～11.7%の反補助金関税を課すと公表しているため^(注6)、今後の乳製品の輸入動向への影響が注目される。

（注4）『畜産の情報』2026年2月号「繁殖雌豚頭数はわずかに減少、豚肉輸入量もやや減少」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_004079.html）をご参照ください。

（注5）HSコード：0401.50（ミルクおよびクリーム（脂肪分が全重量の10%以上））、0406.10（フレッシュチーズおよびカード）、0406.20（おろしチーズおよび粉チーズ）、0406.30（プロセスチーズ）、0406.40（ブルーベインドチーズなど）、0406.90（その他のチーズ）。

（注6）これまでの経緯については、海外情報「EU産乳製品に対し中国が反補助金関税を暫定的に開始（EU、中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004282.html）をご参照ください。

表 主な乳製品の品目別輸入量の推移

(単位：万トン)

品目	2023年	24年	25年	前年比 (増減率)	【参考：輸入額】 前年比 (増減率)
全粉乳	43.1	41.0	38.4	▲6.3%	9.5%
脱脂粉乳	34.7	22.9	21.0	▲8.2%	▲2.0%
飲用乳	54.8	41.7	40.5	▲2.9%	2.0%
ミルクおよびクリーム	26.4	28.8	26.4	▲8.2%	▲0.6%
ヨーグルト	1.8	1.6	1.5	▲7.2%	▲8.5%
チーズ	17.8	17.3	19.7	13.9%	20.9%
バター	9.3	10.5	11.3	8.1%	27.1%
育児用調製粉乳	23.8	21.6	22.2	2.7%	12.0%
ホエイ	65.6	64.5	70.9	9.8%	14.3%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と401.20、ミルクおよびクリームが0401.50（脂肪分が全重量の10%以上）、ヨーグルトは0403.20、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調製粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。

(調査情報部)

飼料穀物

世界

25/26年度は生産量の上方修正から期末在庫は上方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2026年1月12日、2025/26年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億9601万トン（前年度比5.3%増）と前月から1305万トン上方修正された。主要生産国では米国および過去最高を更新した中国の上方修正が大きく反映された。

輸入量は、世界全体で1億9022万トン（同2.2%増）と前月から15万トン下方修正された。主要生産国はいずれも前月から据え置かれた。

消費量は、世界全体で12億9980万トン

（同3.9%増）と前月から262万トン上方修正され、引き続き高水準を維持している。主要生産国の米国でグルコースやデキストロース、異性化糖など工業向け利用への減少が見込まれているものの、飼料向けなどへの利用がこれを上回る見込みであることから、3億3453万トンと前月から228万トン上方修正された。

輸出量は、世界全体で2億511万トン（同9.9%増）と前月から1万トン上方修正された。主要生産国はいずれも前月から据え置かれた。

この結果、期末在庫は、生産量の上方修正が消費量の上方修正を上回ったことで、2億9091万トン（同1.3%減）と前月から1176万トン上方修正された。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し (2026年1月12日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2023/24 年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度			
			(12月予測)	(1月予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	34.55	44.79	38.91	39.40	▲12.0%
	生産量	389.67	378.27	425.53	432.34	14.3%
	輸入量	0.72	0.55	0.64	0.64	16.4%
	消費量	322.87	311.60	332.25	334.53	7.4%
	輸出量	57.28	72.60	81.28	81.28	12.0%
	期末在庫	44.79	39.40	51.53	56.56	43.6%
	ブラジル	期首在庫	9.88	8.33	10.43	10.58
生産量		119.00	136.00	131.00	131.00	▲3.7%
輸入量		1.72	1.75	1.60	1.60	▲8.6%
消費量		84.00	94.50	96.50	96.50	2.1%
輸出量		38.26	41.00	43.00	43.00	4.9%
期末在庫		8.33	10.58	3.53	3.68	▲65.2%
アルゼンチン		期首在庫	2.32	2.48	6.28	6.58
	生産量	51.00	50.00	53.00	53.00	6.0%
	輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
	消費量	14.60	16.40	16.40	16.70	1.8%
	輸出量	36.26	29.50	37.00	37.00	25.4%
	期末在庫	2.48	6.58	5.89	5.89	▲10.5%
	ウクライナ	期首在庫	3.00	0.54	0.84	0.84
生産量		32.50	26.80	29.00	29.00	8.2%
輸入量		0.01	0.02	0.01	0.01	▲50.0%
消費量		5.48	6.50	6.00	6.00	▲7.7%
輸出量		29.49	20.02	23.00	23.00	14.9%
期末在庫		0.54	0.84	0.85	0.85	1.2%
EU		期首在庫	8.02	7.29	6.14	6.21
	生産量	61.95	59.02	56.75	56.75	▲3.8%
	輸入量	19.81	18.76	20.00	20.00	6.6%
	消費量	78.10	76.10	75.30	75.30	▲1.1%
	輸出量	4.39	2.76	1.80	1.80	▲34.8%
	期末在庫	7.29	6.21	5.79	5.86	▲5.6%
	中国	期首在庫	206.02	211.19	191.93	191.93
生産量		288.84	294.92	295.00	301.24	2.1%
輸入量		23.33	1.82	8.00	8.00	339.6%
消費量		307.00	316.00	321.00	321.00	1.6%
輸出量		0.00	0.00	0.02	0.02	—
期末在庫		211.19	191.93	173.91	180.15	▲6.1%
世界計		期首在庫	305.36	315.42	293.37	294.70
	生産量	1230.71	1230.86	1282.96	1296.01	5.3%
	輸入量	197.62	186.10	190.37	190.22	2.2%
	消費量	1220.65	1251.59	1297.18	1299.80	3.9%
	輸出量	192.65	186.64	205.10	205.11	9.9%
	期末在庫	315.42	294.70	279.15	290.91	▲1.3%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部)

大豆生産量の上方修正から期末在庫も上方修正

米国農務省世界農業観測ボード (USDA/WAOB) および米国農務省海外農業局 (USDA/FAS) は2026年1月12日、2025/26年度の世界の大豆需給予測値を更新した

(表)。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2568万トン(前年度比0.3%減)と前月から314万トン上方修正された。この

表 主要国の大豆需給見通し (2026年1月12日米国農務省公表)

(単位: 百万トン)

国名	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度		
			(12月予測)	(1月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	7.19	9.32	8.61	8.84	▲5.2%
生産量	113.27	119.05	115.75	115.99	▲2.6%
輸入量	0.57	0.79	0.54	0.54	▲31.6%
消費量	62.20	66.55	69.54	69.94	5.1%
輸出量	46.27	51.23	44.50	42.86	▲16.3%
期末在庫	9.32	8.84	7.89	9.52	7.7%
ブラジル					
期首在庫	36.80	29.72	36.81	36.81	23.9%
生産量	154.50	171.50	175.00	178.00	3.8%
輸入量	0.87	0.73	0.50	0.50	▲31.5%
消費量	54.41	58.00	59.00	60.00	3.4%
輸出量	104.19	103.14	112.50	114.00	10.5%
期末在庫	29.72	36.81	36.51	36.91	0.3%
アルゼンチン					
期首在庫	17.00	24.05	23.09	23.09	▲4.0%
生産量	48.21	51.11	48.50	48.50	▲5.1%
輸入量	7.79	6.32	7.70	7.70	21.8%
消費量	36.58	43.22	41.00	41.00	▲5.1%
輸出量	5.11	7.87	8.25	8.25	4.8%
期末在庫	24.05	23.09	22.84	22.84	▲1.1%
中国					
期首在庫	32.34	43.31	44.49	44.49	2.7%
生産量	20.84	20.65	21.00	20.90	1.2%
輸入量	112.00	108.00	112.00	112.00	3.7%
消費量	99.00	103.50	108.00	108.00	4.3%
輸出量	0.07	0.07	0.10	0.10	42.9%
期末在庫	43.31	44.49	44.39	44.39	▲0.2%
世界計					
期首在庫	101.78	115.08	123.24	123.40	7.2%
生産量	396.35	427.15	422.54	425.68	▲0.3%
輸入量	178.42	179.37	186.14	186.04	3.7%
消費量	331.16	358.69	365.24	366.43	2.2%
輸出量	177.84	184.70	187.70	187.57	1.6%
期末在庫	115.08	123.40	122.37	124.41	0.8%

資料: USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1: 各国の穀物年度 米国: 9月~翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国: 10月~翌9月。

注2: 消費量は搾油仕向量である。

うち、最大の生産国であるブラジルは前月から300万トン、これに次ぐ米国は前月から24万トン上方修正された。

輸入量は、世界全体で1億8604万トン（同3.7%増）と前月から10万トン下方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億1200万トン（前年度比3.7%増）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億6643万トン（同2.2%増）と前月から119万トン上方修正された。このうち、最大の消費国である中国は1億800万トン（同4.3%増）と同じく据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8757万トン（同1.6%増）と前月から13万トン下方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジルは前月から150万トン上方修正された一方、これに次ぐ米国は前月から164万トン下方修正された。

期末在庫は、生産量の上方修正などを反映

して1億2441万トン（同0.8%増）と前月から204万トン上方修正された。

今回の予測値に関して、大豆の国際相場に影響を与える中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した25/26年度の中国の大豆輸入量9580万トンとUSDAの予測値には、引き続き1620万トンの乖離がある。米国政府が25年11月に発表した中国との貿易・経済協定によれば、中国は少なくとも1200万トンの米国産大豆を購入するとされている^(注)。これにより、乖離の幅がどの程度縮小に向かうのか注目されている。

(注) 米国政府は当初、中国は25年後半の2カ月間で少なくとも1200万トンの米国産大豆を購入すると発表していたが、米国の現地報道は、ベッセント財務長官が同期限を26年2月28日まで事実上延長する旨の発言をしたと報じている。

(調査情報部)

米 国

米国は生産量の増加などから期末在庫は大幅に増加

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2026年1月12日、2025/26年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

米国内生産量は、170億2100万ブッシェル（4億3235万トン^(注1)、前年度比14.3%増）と前年度をかなり大きく上回ると見込まれている。

米国内消費量は、131億7000万ブッシェル（3億3453万トン、同7.4%増）と前年度からかなりの程度増加すると見込まれている。

輸出量は、32億ブッシェル（8128万トン、同12.0%増）と前年度をかなり大きく上回ると見込まれている。

期末在庫は、22億2700万ブッシェル（5657万トン、同43.6%増）と前年度から大幅な増加が見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、13.6%（同3.3ポイント増）と、前年度を上回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.10米ドル（634円。1キログラム当たり25円：1米ドル＝154.66円^(注2)、同

3.3%安)と前年度からやや下落すると見込まれている。

(注1) 1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年1月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し (2026年1月12日米国農務省公表)

区分	-単位-	2023/24年度	24/25年度(推計値)	25/26年度			
				(12月予測)	(1月予測)	参考(換算値)	前年度比(増減率)
作付面積	(百万エーカー)	94.6	90.9	98.7	98.8	39.98 (百万ヘクタール)	8.7%
収穫面積	(百万エーカー)	86.5	83.0	90.0	91.3	36.95 (百万ヘクタール)	10.0%
単収	(ブッシェル/エーカー)	177.3	179.3	186.0	186.5	11.71 (トン/ヘクタール)	4.0%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,763	1,532	1,551	39.40 (百万トン)	▲12.0%
生産量	(百万ブッシェル)	15,341	14,892	16,752	17,021	432.35 (百万トン)	14.3%
輸入量	(百万ブッシェル)	28	22	25	25	0.64 (百万トン)	13.6%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,729	16,677	18,309	18,597	472.38 (百万トン)	11.5%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,711	12,267	13,080	13,170	334.53 (百万トン)	7.4%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,831	5,454	6,100	6,200	157.49 (百万トン)	13.7%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,880	6,813	6,980	6,970	177.04 (百万トン)	2.3%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,489	5,436	5,600	5,600	142.25 (百万トン)	3.0%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,255	2,858	3,200	3,200	81.28 (百万トン)	12.0%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,966	15,126	16,280	16,370	415.81 (百万トン)	8.2%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,763	1,551	2,029	2,227	56.57 (百万トン)	43.6%
期末在庫率	(%)	11.8	10.3	12.5	13.6		3.3ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	4.55	4.24	4.00	4.10	25.0 (円/kg)	▲3.3%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で「表 主要国のトウモロコシの需給見通し」の米国の値と一致しない場合がある。

(調査情報部)

中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

25年12月の国産トウモロコシ価格、前月からやや上昇

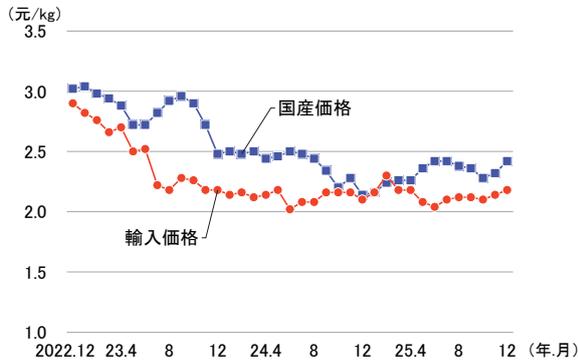
中国農業農村部は1月20日、「農産物需給動向分析月報(2025年12月)」を公表した。この中で、25年12月の国産トウモロコシ価格は前月からやや上昇した(図1)。同月のトウモロコシ需給を見ると、供給面では旧暦の元日(春節。26年は2月17日)を控え、農家の販売意欲が高まっている。需要面では飼料需要が堅調であること、また、コーンス

ターチ製造企業の在庫が前年同期比で少なく、補充需要が存在することなどから、今後のトウモロコシ価格は安定的な推移が見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる^{かんどん}広東省^{こうほ}黄埔港到着価格は、25年12月が1キログラム当たり2.18元(49円:1元=22.41円^注)、前月比1.9%高)とわずかに上昇した。また、同月の国産トウモロコシ価格(東北部産の同港到着価格)も同2.42元(54円、前月比

4.3%高) とやや上昇したが、国産価格の上昇幅が輸入価格の上昇幅を上回ったことから、輸入と国産の価格差は拡大した。

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
 注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。
 注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

25年12月の国産大豆価格、前月からわずかに上昇

2025年12月の国産大豆価格は、前月からわずかに上昇した（図2）。同月の大豆需給を見ると、加工企業は調達に慎重な姿勢を取っている一方、継続した国家備蓄在庫用の買い入れなどが同価格を下支えしていることから、国産大豆価格は引き続き堅調かつ安定的な推移が見込まれている。

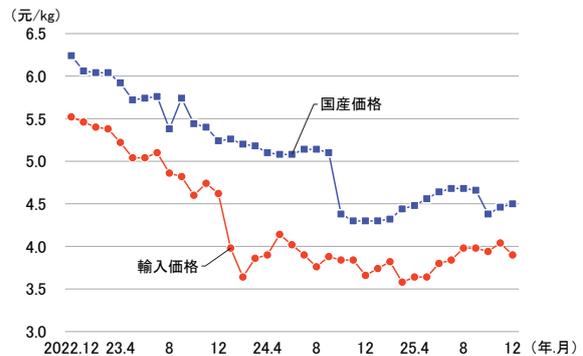
各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省こくりゅうこうの食用向け国産大豆平均取引価格は、25年12月が1キログラム当たり3.96元（89円、前年同月比4.3%高）と前年同月をやや上回った。また、大豆の国内指標価格

の一つとなる山東省さんとうの国産大豆価格も、同4.50元（101円、同4.4%高）と前年同月をやや上回った。同月の輸入大豆価格は同3.90元（87円、前月比3.2%安）と前月からやや下落したことで、輸入と国産の価格差は拡大した。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、前年に比べて高い水準にある。25年（1～11月）の輸入量は1億377万トン（前年同期比6.9%増）とかなりの程度増加した。また、輸入額は同5.3%減の465億米ドル（7兆1917億円：1米ドル＝154.66円注）と報告されている。主な輸入先はブラジル（総輸入量の73.9%）、米国（同16.2%）、アルゼンチン（同6.0%）であり、ブラジルからの輸入が増加している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年1月末TTS相場。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成
 注1：国産価格は、山東省入荷価格。
 注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

（調査情報部）